

6 へき地医療

現状と課題

< 現状 >

無医地区等の現状

無医地区等調査(平成 26 年 10 月)によると、府内に無医地区は 8 市町村 13 地区、無歯科医地区は 8 市町村 18 地区となっています。

へき地の医療提供体制の現状

- < へき地診療所 > ... 市町村等により、府内に 16 箇所(うち歯科診療所 2 箇所)
- < へき地医療拠点病院 > ... 府内 10 病院を指定
- < へき地医療支援機構 > ... 平成 15 年から京都府立医科大学附属北部医療センター(旧与謝の海病院)に設置

< 課題 >

へき地医療を担う拠点病院等における医師確保の推進

地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

医療提供体制の充実(へき地医療支援機構の機能強化、へき地医療拠点病院の運営支援、救急搬送体制や ICT 活用等によるへき地診療支援等)

【これまでの取組】

医師確保対策(「保健医療従事者の確保・養成(医師)」と共通)

地域医療確保奨学金、大学院医学研究科授業料等助成などを通じた、若手医師の育成

地域医療体験実習の実施や総合医療・医学教育学講座の設置、医学教育用機器の整備など、大学における地域医療教育の充実を支援

医師一人ひとりの経験年数、専門性、出産、育児、介護等特段の事情等に応じた各種相談に対応し、地域医療支援センターが大学、関係機関と連携を図りながら地域医療確保奨学金貸与者や自治医科大学生等の医師としてのキャリア形成を支援

京都府立医科大学推薦入学者については、地域医療支援センターと大学が連携を図りながら医師確保困難地域における地域医療を担う人材として育成

若手医師が北中部地域で勤務することに対する心理的不安を解消するため、京都府立医科大学、京都大学と府内11医療機関を含むテレビ会議システムの導入を支援

医療提供体制の充実

- ・へき地医療拠点病院の運営支援

へき地診療所への医師派遣等にかかる経費等について補助

- ・関西広域連合が運航するドクターヘリによる広域救急医療体制体制の充実

- ・ICTを活用した診療支援

へき地医療支援機構(京都府立医科大学附属北部医療センター)における遠隔画像診断体制の充実

対策の方向

ポイント

医師確保の推進、医師のキャリア形成について(「保健医療従事者の確保・養成(医師)」と共通)

地域医療支援センター・へき地医療支援機構と医療勤務環境改善支援センターの連携を強化し、
医師総合確保対策を推進

< 量的確保対策 >

(1) 医師の診療科偏在・地域偏在の解消

- ・地域の医療需給を踏まえた医師偏在解消の取組や現在及び将来不足が予測される診療科等についての対応策を検討
- ・地域医療従事医師に対する研修・研究支援や、指導医の派遣元病院への支援など研修・研究環境の充実を通じた医師の確保
- ・地域医療体験実習の推進や京都府立医科大学における総合医療・医学教育学講座、京都大学における医学教育用機器などを活用した、大学における地域医療教育の充実支援
- ・ホームページや各種雑誌、就職説明会など様々な媒体を活用した広報活動により、京都府に縁のある、または府内で働きたい医師を広く募集するとともに、府内病院と連携して、研修プログラムガイドブックを作成・配布、就職説明会に参加するなどの取組を通じて府内で勤務する医師を確保
- ・医師確保対策、医師臨床研修制度や専門医制度等、引き続き地域偏在や診療科偏在の解消に向けた制度となるよう、国への政策提案、要望等を実施

(2) 在宅医療を担う医師の確保

- ・医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士及び栄養士、ケアマネジャー、介護職員など、在宅医療に関わる人材の育成を図るとともに、在宅医療を複数の医師又は多職種で進められるよう在宅チーム医療を推進
- ・地域の状況に応じ、病院、診療所での訪問診療、訪問看護を支援

(3) 新たな医療資源の活用(ベテラン医師が地域医療で活躍できる仕組づくり)

- ・勤務医等を退職したベテラン医師の活躍の場として、専門分野を活かした診療支援や学会出張時等短期間の支援等、医療機関の若手医師をはじめとする勤務医等を支援する仕組を構築

< 資質向上対策・勤務環境の改善 >

(1) 地域医療に従事する医師のキャリア形成のための体制を構築

- ・府内の中核病院と医師確保困難地域の病院をローテーションしながらキャリアアップが図れるよう、臨床研修、専門研修プログラムの実施を支援
- ・新たな専門医制度において医師確保困難地域で勤務する専攻医の研修環境向上等若手医師のキャリア形成を支援
- ・医師一人ひとりの経験等に応じ各種相談に対応するとともに、特に、地域医療確保奨学金貸与者や自治医科大学生、大学院医学研究科授業料助成事業の利用者等の医師については、医師確保困

難地域における地域医療を担う人材として育成する観点から、地域医療支援センターと大学が連携してキャリア形成を支援

(2) 医師にとって働きやすい職場環境の整備

- ・地域医療支援センターが医師派遣を行う医療機関における医療勤務環境改善の推進など医療勤務環境改善支援センターとの連携を強化
- ・医師と看護師やその他の職種との連携や病院勤務医の事務を補助する医療補助者(医療クラーク)の養成を支援するなど医師の負担を軽減
- ・女性医師が勤務を継続又は離職後の再就業や育児中でも急な業務に安心して対応できるよう、ワークライフバランスを考慮した勤務環境の改善や院内保育所の運営等を支援

医療提供体制

地域医療支援センターとへき地医療支援機構の連携を強化し、へき地における医療確保・へき地の診療支援体制を支援

- ・へき地診療所
初期診療に対応するへき地診療所の設備更新等を支援
- ・へき地医療拠点病院
拠点病院に必要な診療設備の整備、へき地診療所への医師派遣等を支援
- ・へき地医療支援機構
京都府立医科大学附属北部医療センターにおいて、へき地医療支援機構としての機能の充実・強化を図り、へき地医療対策の企画・調整を行うとともに、各種事業を円滑かつ効率的に実施
- ・その他(診療支援体制の充実)
 - ア 総合診療・プライマリケアを実施する医療従事者(医師、歯科医師、看護師等の確保
 - イ 関西広域連合が運航するドクターヘリによる広域救急医療体制の充実
 - ウ ICTを活用した診療支援
静止画像等伝達装置等を利用した病診連携など

成果指標

項目	現状値		目標値		出典
地域医療確保奨学金の貸与を受け医師確保困難地域の医療施設に従事した者(再掲)	98人	H29年度 (2017年度)	160人	2023年度	京都府医療課調べ
新たな専門医制度において医師確保困難地域の医療施設に従事した専攻医数(再掲)	0人	H29年度 (2017年度)	300人	2023年度	

へき地保健医療対策現況図

(平成29年5月1日現在)

